



File
11

有限会社財津製作所

- 所在地：日田市大字花月1376番地
- TEL：0973-24-9035
- 事業内容：自動車の部品加工、金属プレス加工
- 雇用人数：健常者13人 障がい者2人
- 沿革：1971年 家屋を開放し内職として地元住民の共同作業を始める
- 1983年 有限会社設立
- 1989年 第2工場着手

障がい者が働きやすい職場は すべての人が働きやすい職場

現在の障がい者の雇用状況等について

■ 雇用している障がい者の状況

正社員はグループホームから通勤している軽度知的障がい者1人。このほか、部品検査の外注部門に、軽度の知的と身体の重複障がい者が勤務している。

また週1日、自閉症者の職場研修を受け入れている。一昨年まで、精神障がい者を雇用していた。

■ どんな仕事をしているか

正社員は工場内で金属のプレス機械を操作し、製品作りの一部門を担当。

部品検査の外注部門はフルタイムで働くことが難しい人が、個数単位で検品を請け負い、別棟の検査場で仕事をしている。健常者6人と重複障がい者1人が勤務。この障がい者は以前、他の工場で働いていた経験もあり、サポートがなくても仕事ができる。



プレス機械を操作する上家さん

障がい者を雇用して良かった点

障がい者は少しずつ仕事を覚え認められるごとに、ますます仕事ができるようになる。

仕事をすることは生活のための収入を得るといった目的があるが、人に信頼され認められる喜びや、充実感を味わうことが一番なのだ、教えてくれる。

障がい者が作業することから、安全と品質管理のため機械の改良をしたことで、他の社員の労災も減った。

コメント

■ 障がい者雇用担当者

取締役 平川 加奈江さん

障がい者施設や障害者就業・生活支援センターと協力すると、各職場の中で障がい者のできる仕事を見つけてくれるなど、会社と障がい者双方に負担が少ないと思います。

将来はプレスの加工技術を生かして福祉色の強い会社を設立し、障がい者への自立サポートができることを目標にしています。



■ 現職障がい者

上家 代二郎さん

製品のタップを作っています。頑張っ
てほめられた時は仕事をしていて楽しい
と感じます。

月曜から土曜まで通ってきています。職場の人たち
とも仲良くなりました。



プロセス

STEP
1

■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

軽度の知的障がいのある男性が「会社の前にバス停があり、自宅からバスで通
いやすいから」と、家族とともに同社を訪れ、就職を希望したことがきっかけ。

当時の社長は、山間部で現金収入が少ない人たちが働ける場を作ろうという
目的で会社を設立したこともあり、「困っているならば」と、平成7年に正社員と
して採用。

当初は療育手帳を持っていなかったが、会社が判定の手続きなどを手伝った。



STEP
2

■ どんな問題点にぶつかったか

どのような作業能力があるか分からなかったため、簡単な作業から始め、部品を同じ向きに型に落とし
込む検品作業のみを担当。

入社当時は身辺自立ができておらず、あいさつなどもできなかった。更正施設と協力し、清潔な身なり
をるところから指導した。

STEP
3

■ それに対してどんな改善策を取り、工夫をしてきたか



順序だてて指導をし、障がい者が仕事を覚えてくると、仲間
意識が生まれてきて、他の社員の作業を自ずから手伝ったり、
代わって作業をするなどの配慮ができるようになった。

週1日通ってくる自閉症者ために、自然に健常者の社員が
協力。昼食用にいつも同じパンが買えるよう近所の店に依頼
したり、社内のどこにいても、いつパニックを起こしても対応
出来るように社員たちが見守っている。

健常者でも、家族の世話などでフルタイムで働けない人
には、自分で時間を決められる外注部門で仕事をしてもらう
など、フレキシブルな受け入れ態勢があり、障がい者の受け入れ
にも柔軟に対応できている。

社内環境

担当者の平川さんは職場適応援助者2号の資格を取得。受け入れる
企業側として、制度の整備や対外的な交渉でも、障がい者の立場を尊重
して、働きやすい職場作りに尽力している。

またNPO法人障がい児支援の会「ぱれっと」を設立。会社に就職し
てからの問題は、子供のときからの生活支援で未然に防げることが多い
と考え、これまでのノウハウを生かして活動している。

